

職員の感染事故（針刺し・切創・皮膚粘膜曝露）

1. 臨床的意義（なぜこの指標を管理するのか）

- ① 医療従事者の感染リスク低減：病院で従事するスタッフにとって、患者に使用した針が刺さる「針刺し」や、血液・吐物が目等に入る「粘膜曝露」は主要なリスクであり、重大な感染症罹患につながる可能性がある。
- ② 組織の安全文化（報告体制）の可視化：本指標は、事故発生時に適切に自己申告され、フォローアップが行われた人数を示す。数値の増加は「ルール不遵守」を示すだけでなく、「事故を隠さず適切に報告できる体制（安全風土）が整っていること」をも表す、病院機能評価において極めて有用な指標である。

2. 指標の定義とベンチマーク

定義	院内で従事するスタッフにおいて発生した針刺し・切創・皮膚粘膜曝露事故のうち、自己申告され、かつフォローアップを行っている人数
ベンチマーク	2011 年エピネットデータ（EPINet）を参照し同等規模（病床数換算）の医療機関における年間平均発生件数

3. PDCA サイクルに基づく分析と評価

① Plan（計画）

適切な安全機材の選択とルールの徹底、およびヒューマンエラーをなくす試みにより、感染事故件数を最小限に抑える。同時に、事故時の迅速な報告・フォローアップ体制を維持する。

② Do（実行）

- ア ハード面の対策：安全機材付きの針（セーフティデバイス等）の導入・選択。
- イ ソフト面の対策：血液・体液曝露を防ぐための防護具（ゴーグル・フェイスシールド等）の着用ルール化。
- ウ 組織的な対策：事故発生時に心理的ハードルを下げ、速やかに申告・フォローアップができる体制の構築。

③ Check（評価）

ア 当院の状況（2025 年）

針刺し														
2025年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2025通年	2024通年
件数	10	3	0	5	5	5	5	2	5	3	5	4	52	48

粘膜曝露														
2025年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2025通年	2024通年
件数	3	1	1	0	1	1	1	0	0	2	0	1	11	17

イ ベンチマーク換算値（当院病床数規模での全国平均）

針刺し件数：約 46 件 / 年、粘膜曝露：約 7 件 / 年

ウ 動向分析

- ・ 【針刺し】全体として増加傾向にあります。特に「手術中の手技」に伴う針刺し事例の増加が顕著であり、明確な課題となっています。
- ・ 【皮膚粘膜曝露】これまでの推移では減少傾向にありましたが、直近では昨年より増加に転じており、防護具着用の徹底に緩みが生じている可能性があります。

④ Act（改善）：今後の取り組み・予定

ア 手術室における安全な業務プロセスの励行

手術中の手技に起因する針刺しを減少させるため、安全な業務手順について現場への周知・徹底（励行）を継続する。

イ 安全器材の適切な選択とヒューマンエラー対策

現在使用している安全器材が適切に機能しているか検証し、安全な器材の使用やヒューマンエラーをなくす試みを継続する。

ウ 防護具着用のリマインドと安全教育

増加に転じた皮膚粘膜曝露を再度減少させるため、基本である防護具着用のルールを改めて徹底する。